



くすのき 2月号

めざす子どもの姿 元気いっぱい、やさしいいっぱい、何でもチャレンジ南っ子！

「本物に触れる」大切さ

副校長 針持 拓郎

新しい年を迎えて早1か月。ひと月前には予想もしていなかったような勢いで、新型コロナウイルス感染症が再び猛威を振るっています。今回は小学生の感染も非常に多く、市内小学校では学級閉鎖、学校閉鎖も起こっています。寒い時期ですが石鹸を使った十分な手洗いやアルコール消毒を確実に、鼻までしっかりとマスクで覆う、少しでも具合が悪いときは無理せず休む、といった基本的な対策が徹底されるよう、学校でも今まで以上に指導を行っています。

さて、今から考えると、世の中が少し落ち着いていた11月に6年生が日光への宿泊体験学習を行えたことは、とてもいい時期に、貴重な体験ができたと思います。目の前に広がる美しい紅葉の山々、世界遺産である日光東照宮、雄大な華厳の滝の大瀑布、足尾銅山の植林など、やはり写真や映像で見る景色よりも、何倍も心に訴えてくるものがありました。改めて「本物に触れる」ということは、とても大切であると感じました。

1月に入り、感染症対策を十分にとった上で、元アイススレッジホッケーのパリンピアンにして銀メダリストである、上原大祐さんのお話を伺う機会をもちました。可能性を信じ、夢に向かって努力をし、世界の舞台上で活躍した方のお話は、説得力をもって子どもたちの胸を打ったようでした。ここでも「本物に触れる」影響の大きさ、素晴らしさを実感しました。



上原さんよの全校児童へご講演をいただきました。

その他、横浜市スポーツ協会による4年生のタグラグビー教室や、3年生の昔体験で八聖殿の相澤館長が持



4年生のタグラグビー。パスの仕方や走り方を学ぶ姿。

ってきてくださった道具を見ながら学習を進めている様子を見ると、「知識を得る」「技術を身に着ける」だけではない、広い意味での豊かな「学び」の姿を感じることができました。「本物に触れる」ことは、心を大きく成長させる一つの大きな手立てなのだと思えます。



相澤館長が使う昔の道具を、興味をもって見る3年生。

今、この新型コロナウイルスが広がる世の中では、様々な活動が制限されており、なかなか思うように体験できない現状もあります。早くこのような状況が打破され、豊かな体験ができる世の中に戻ってきてほしいと切に願います。そのためには、今できることをしっかりとやるのが第一歩。そして、身の回りの小さなことにも「本物」を感じる心のゆとりをもっていきたいところです。令和4年、素敵な「本物」に出会えますように！